



いじめ（いのち）を考える日

大阪市では、毎年、大型連休明けの月曜日を「いじめを考える日」とし、いろいろな取り組みを通していじめのない学校づくりを目指しています。今年は名前が少し変わって「いじめ（いのち）を考える日」になりました。これは、いじめが^{ほったん}発端で命まで失う事案が後を絶たないことから、いじめだけでなく命についても考える日にしようとなったからです。

昨年全国で自殺した小中高校生は514人で、過去最悪となりました。その原因は、学業や人間関係、健康、家族と様々ですが、いじめによるものもあるようです。いじめによって自殺にまで追い込まれることは^{まれ}稀かも知れませんが、実際に起こっている以上は、いじめが命に係わることはまぎれもない事実です。

誰もがいじめはいけないことだとわかっているのですが、何故かいじめはなくなりません。もちろん、わざと他人を攻撃することなどもってのほかですが、子どもたちが日常生活をしていく上で、その種^{たね}はいろんなところに存在します。ちょっとした意見の違いを許せなかったり、言葉や気持ちのキャッチボールがうまくできなかつたりするだけで、それがいじめにつながる事も多いです。

たとえば、こんなケースはどうでしょう。「算数の練習問題をしている時、なかなか問題が解けない A さんに、B さんが答えを教えてあげようと思いました。A さんは自分で答えを出すから教えないでと言いましたが、B さんは答えを教えてしまいました。すると、A さんは、泣いてしまいました。」さて、これはいじめになるのでしょうか。

答えは「いじめになる」です。現在いじめの定義は昔と違い、「当該児童生徒が、一定の人間関係のあるものから、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより精神的な苦痛を受けていること」とされています。簡単に言うと「友だちから自分がいやなことをされたり言われたりしたこと」がいじめになるのです。この場合、B さんがたとえ良かれと思って言ったとしても、A さんは答えを聞きたくなかったのに無理やり聞かされたから精神的な苦痛を受けたことになるのでいじめとなります。要は受け手がどう感じるかが重要なのです。もし、B さんに A さんの気持ちを思いやる余裕があれば、答えを教えないでと言われた後に、「じゃあ、一緒に考えようか？」などの方法が出てきたかもしれませんね。だからいじめをなくすには、「相手ときちんとコミュニケーションをとること」や「相手がどう思うかを想像する心をもつこと」がとても大切になってきます。



実際の生活では、このような例は、何が原因で、どうすればよいのかを先生が指導していくことで大きな問題にならず、その後 A さんと B さんには望ましい関係が築かれると思いますが、もし、先生がその事を知らなければ、最初はいじめのつもりでなくても、何度も繰り返したり、だんだんエスカレートしたりして、気づいた時には深刻な事態になっているかもしれません。そこで次に大事ななのは、いじめを受けた本人が声を上げることや周りの人が気づくことです。それが、いじめの早期発見と解決につながるのです。学校では、毎日の心の天気やいじめアンケートなどで、いち早くそうした状況を察知するよう努力していますが、いじめは大人の目の届かないところで起こるものです。ですから、まずは子どもたちと「どんな理由があっても、いじめは絶対に許さない」という強い気持ちを一緒にもつことで、いじめのない毎日を楽しく過ごせる学校を目指していきたいと思っています。

どおする マスク

大型連休明けから、新型コロナウイルス感染症が、感染症分類の2類から5類に変更になります。5類といえば、インフルエンザなどと同じ扱いです。それに伴い、これまでお願いしてきた毎朝の検温が必要なくなるなど様々な対応が変更になる方向です。（具体的な対応は、わかり次第お知らせします。）

マスクについては、文部科学省の通知に基づいて、4月1日以降の学校教育活動に当たっては着用を求めないとされましたが、今も多くの児童が普段からマスクを着用しています。もちろん新型コロナが5類になるからといって、その感染力が衰えるわけでもなく、いまだに毎日感染が発生していることから引き続き感染予防に努めていかなくてもなりません。身の回りに重症化リスクの高い方がいたり、花粉症など持病があったりすれば、これまでと変わらずマスクの着用が必要でしょうし、体調の悪いときにはマスクをした方が、周囲への配慮にもなります。

しかし、中には、感染症への対応ではなく、マスクを外した顔を見られるのが恥ずかしいという理由で着用している人もいます。まさに本当のマスク（仮面）ですね。また、感染の不安は感じないのにマスクがないと何となく落ちつかないという人も、ひょっとしてマスク依存になりかけているかも知れません。まあ、これだけ長い間マスクをするのが当たり前の毎日を過ごしたのだから、気持ちはわからなくもないですが…。

始業式の日、私は「学校で、マスクは着けても着けなくてもいいです。」と子どもたちに話しました。ですから、学校では、マスクを着けなさいとも外しなさいとも言いません。（ただし、熱中症の危険があるときは、外すよう積極的に声をかけます。）

これからも感染症への対応をしながらの生活は続きます。マスクについては、みんながしているからではなく、なぜマスクをするのかをしっかりと考えて使用してほしいと思っています。